



600 だけに装備される電動式のATFクーラー。これにトラブルが起きるとATFの温度が上昇してしまい、AT本体に大きなダメージを与えてしまう。

モーターが焼きついてしまうことが多い!



トラブルとして多いのはモーターが焼き付いてファンが回らなくなってしまうこと。



油温を感知するセンサーが小さなラジエターに備わる。これが不良になるケースは少ない。



ゴムホース類はわりに耐久性が高く、オイル漏れが起きるケースはあま



ラジエターの目詰まりも気になるところだが、比較的トラブルは少ない傾向にある。

「セントラルオート」の児玉氏に、簡単にできる点検方法を教えてもらったので紹介しよう。まずは、ATFクーラーは運転席から見て左側のバンパー内部に装着されていることを覚えておこう。そしてイグニッションをオンにしてモーター音がすればひとまずはOK。さらにアイドリング中にモーター音がするかをチェック。モーター音を確認する人と運転席に座る人の二人でやるとチェックしやすい。いずれもトラブルの原因として多いモーターの状態を確認することができるのだ。注意点としては、あくまでもモーター不良をチェックするための方法なので、温度センサーの不良による作動不良は、症状として表れないと分からないこと。心配な人は一度修理工場で点検してもらおうというだろう。

アクセルの踏みすぎにはご注意を!



キックダウンスイッチが壊れることも

ATの変速を強制的にチェンジできるキックダウンスイッチ。いざ踏み込めば600ならではとてつもない加速を發揮できるものだが、このスイッチがダメになることがある。壊れれば当然キックダウンはできなくなり、ONの状態のまま動かなくなると変速タイミングがおかしくなってしまう。比較的トラブルが多いのでアクセルの踏みすぎにはくれぐれもご注意を。

600 だけの特別な装備

ATFクーラーの トラブルに注意せよ!

600 だけに装備されるのが電動式のATFクーラー。純正装着されるということは、それだけ油温が上がりやすいということ。ATFクーラーの状態を正常に保つことがATの寿命を延ばすことにも繋がるのだ。

文= GERMAN CARS 撮影=G.C.E 協力=セントラルオート

ATのオーバーホールが不可能な状況に陥ることも

W140シリーズのトップレンジとなる600にはV12エンジンが搭載されるため、メンテナンスにおいては水温ばかりに注目が集まるが、ATFの油温についても注意が必要だ。600にはATFの油温上昇を防ぐためにATFクーラーが標準で装着されている。W124など他の同世代のメルセデスには装着されていないことから、600については油温に対してシビアになっていたというところだろう。

それだけにATFクーラーにトラブルが起きると、AT本体の寿命を短くしてしまうことが考えられる。とくに外気温が高いこの時期は、水温も油温も高くなりがち。温度によって作動するATFクーラーも酷使されることからトラブルに繋がるケースが多いのである。トラブル原因として多いのはモーターが焼きついてしまい、ファンが回らなくなってしまうこと。こうなるとATFの冷却ができなくなってしまう。温度センサーやホースからのオイル漏れ、ラジエターの目詰まりが起きるケースは少ないようだ。ATFクーラーが壊れると、油温の上昇が原因で、AT内部のクラッチ、アウタープレート、ドラムなどの可動部分に多大なダメージを与えてしまう。症状がひどくなるとATFが墨のように真っ黒になつてしまうこともあり、こうなるとオーバーホールすらも不可能な状況に陥り、リビルト品に交換するしかない。特

別に装備されているものだからこそ、機能を正常に保つことは非常に重要なポイントなのだ。そこで埼玉県八潮市に移転した



メルセデスのATについて豊富な経験と知識を持つ児玉氏。オーバーホールを一律料金で行なってくれるところも嬉しい。

取 財 協 力
セントラルオート
埼玉県八潮市八條1179
☎ 048-930-6800
www.central-auto.net